

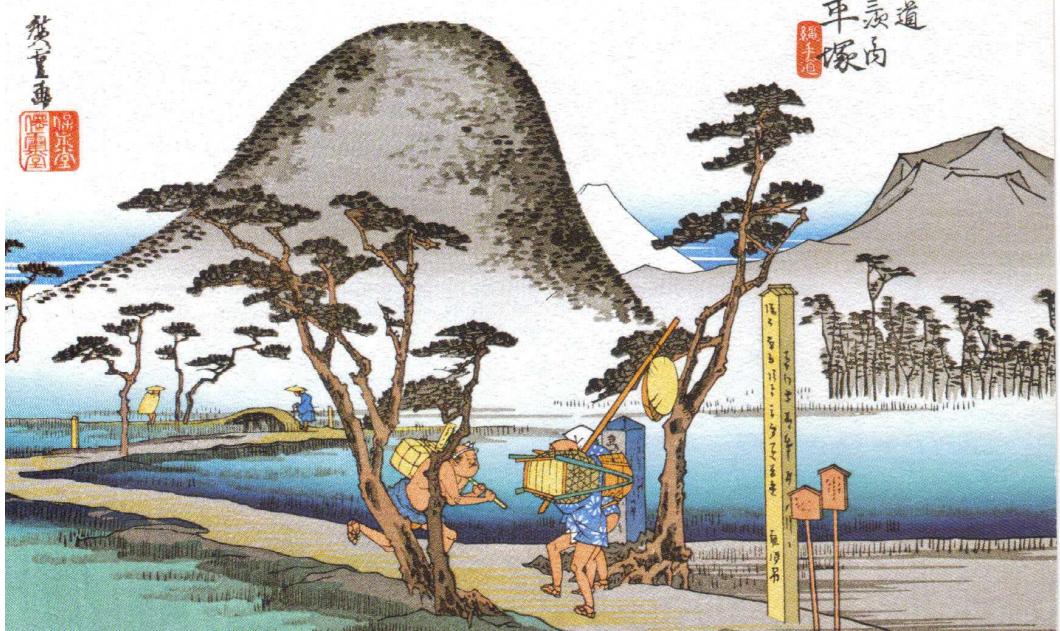
東海道五十三次

平塚

江戸より七番目の宿

ひよっこりぬきんでた高麗山の姿は、
今も昔も平塚を歩く入びとの目撃である。
歩くにづれて刻々と変化する山の
形を見ながら進むのも樂しい。
番町四屋敷のお菊伝承もある。

東海道
五拾二
宿
平塚



古車の絵を見ると、街道沿いには家が軒ちない
ところから、手前の木杭は宿のはずれの表示と思われる。

弧曲した道の奥にかかる橋は花水橋、背景に見える山は高麗山である。現在もこの絵と同じ形の山を望めるが、宿はずれます。

で来ると大で見えます。
宿の中ほどから眺める風景が、もども似ている。

現在の平塚市はJR平塚駅から北へおよそ二キロメートル旧東海道に出たあたりが中心街だ。かつての平塚宿はそこから街道沿いに西へ、およそ七、八百メートル行ったところ、平塚市民センターのあたりに、江戸方面からの宿の入口があつた。現在は平塚見附跡の碑がたつてある。

平塚は昔の面影が残っていない代わりに、史跡表示の目立つ宿場である。

見付宿の出入口(本陣、脇本陣、高札場、問屋場(西組、東組)といつた宿場関係の石柱が、八張面などに立てられてる。遺構はなくとも史跡を見逃さない。

なあ平塚宿は江戸さすにたどることができ、それだけでもありがたい。だからこそさう宿内には平眞盛子の墳墓とされる平塚」があり、平塚の地名の由来といわれている。

なあ平塚宿は江戸さすにたどることができ、それだけでもありがたい。だからこそさう宿内には平眞盛子の墳墓とされる平塚」があり、平塚の地名の由来といわれている。

なあ平塚宿は江戸さすにたどることができ、それだけでもありがたい。だからこそさう宿内には平眞盛子の墳墓とされる平塚」があり、平塚の地名の由来といわれている。

なあ平塚宿は江戸さすにたどることができ、それだけでもありがたい。だからこそさう宿内には平眞盛子の墳墓とされる平塚」があり、平塚の地名の由来といわれている。

